

つづらや  
葛籠屋工房



www.tsuzuraya.com

加藤眞理/経歴

- 1954 大阪府生まれ。6歳より絵画教室に通い始める
- 65 11歳の時に通院していた耳鼻咽喉科にてステンドグラスと出会う
- 70 画家、西山喬氏と出会い油絵及びデッサンを教わる
- 72 大阪府立三島高校卒
- 74 画家ゴーギャン研究のためタヒチ島への旅をする。
- 79 北米縦断への旅をする、ニューヨークソーホーにて多数の芸術家と交流
- 80 フランスより帰国のステンドグラス制作者 今野満利子氏の手で修行を始める
- 83 ステンドグラスアートスクールプロ養成所研究課程修了、当養成所助手を勤める
- 85 画家、ミズテツオ氏と出会い影響を受ける
- 84 画家マチス研究のためフランスへの旅をする
- 87 川崎市にて妻と葛籠屋工房設立、熱海市立澤田政廣記念館ステンドグラス制作
- 93 建築家ガウディー研究のためスペインへの旅をする
- 97 川崎市多摩区の生田緑地にアトリエを移転
- 2000 川崎市の小中学校、工業高校などの地域講師として社会教育に携わる
- 01 世田谷聖母幼稚園礼拝堂、両国に吉葉山土俵入りの図ステンドグラス制作
- 02 ソニーハイビジョンカメラ海外向けコマースに出演
- 03 マクドナルド/グラコロ、コマース用ステンドグラス制作
- 04 明治製菓/メルティークス、コマース用ステンドグラス制作
- 05 赤坂、聖パウロ女子修道院礼拝堂ステンドグラス制作
- 06 天草、大江天主堂/崎津天主堂の修復に携わる

加藤淳子/経歴

- 東京生まれ
- 78 イギリス ケンブリッジへ留学
- 80 ヨーロッパ諸国を旅する
- 81 アダム&イブ タチキチ入社
- 84 ステンドグラスアートスクールプロ養成所研究課程修了
- 85 "華景色展"として関西関東各地でステンドグラス照明作品の展示会を行う
- 86 福井県今里中学校シンボルタワー、ステンドグラス制作に参加
- 87 夫と葛籠屋工房設立
- 2004 夫と共に小中学生の剣道指導に携わる

前半作業工程

1) 原図 鉛筆画		5) 被せガラスをフッ化水素を使って微妙な陰影を施す	
2) 原画を正確に下絵として原寸図に仕上げる		6) フッ化水素により陰影やエッチング処理されたガラス	
3) ガラス選定 最も繊細な注意が必要		7) これより各ピースへの酸化鉄の顔料による絵付け作業を始める はぎ取りによって図柄を浮き出す作業	
4) 原寸型紙に添って切られたガラス		8) 線描きとは別に専用のバジャーブラシで陰影を施す	

後半作業工程

9) 連日の絵付け作業		13) 絵付け作業完了後それぞれのピースを窯入れ 640℃にて一昼夜焼成する	
10) 佳境に入り最終手前の絵付け作業		14) 鉛棧による組立	
11) お顔に眼を入れる		15) 鉛棧とガラスの隙間にパテを詰める	
12) ライトテーブル上での作業を終えて自然光を通して全体の調子づけを行う		16) 完成後吹抜きの場所に取付けられたパネル	



制作主旨

ヨーロッパ諸国に於いて、約1,000年にもわたって大聖堂を飾り培われたキリスト教芸術を現代建築に取り入れようという試みは、さほど困難なものではありませんでした。

それは、ステンドグラスという表現手段が、自然の太陽光線に全面的に依存するという形式であるからでしょう。透過する自然光がキャンパスになり、それに向かって作業を進める時、永遠の光は中世を生きた数々のステンドグラス画工の魂を私の体に呼びよせてくれます。

中世においては読み書きのできない人々への聖書でもありましたが、現代ではそれを離れて無限の可能性を内包したやすらぎの光として受け入れられるように制作しております。

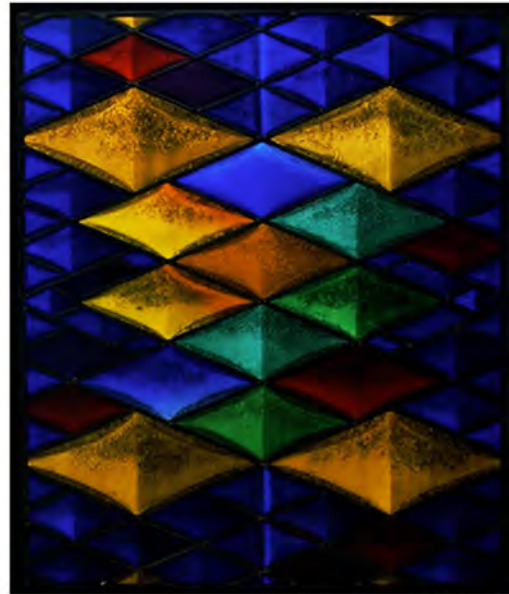
制作を終えて、建物に取り付けられたステンドグラスがそれを観る人々や子供たちに詩的な空想の世界を創り出すやすらぎとなれば嬉しく思います。





故田口義国郎 (人間国宝蒔絵作家)

先生の描かれた松ぼっくりのデザインを参考に抽象表現する



H 700×W 830 (2001年制作)



埼玉県川里町立 ひまわり保育園  
(2002年制作 設計: 相田建築研究所)



2007年明治製菓 CM



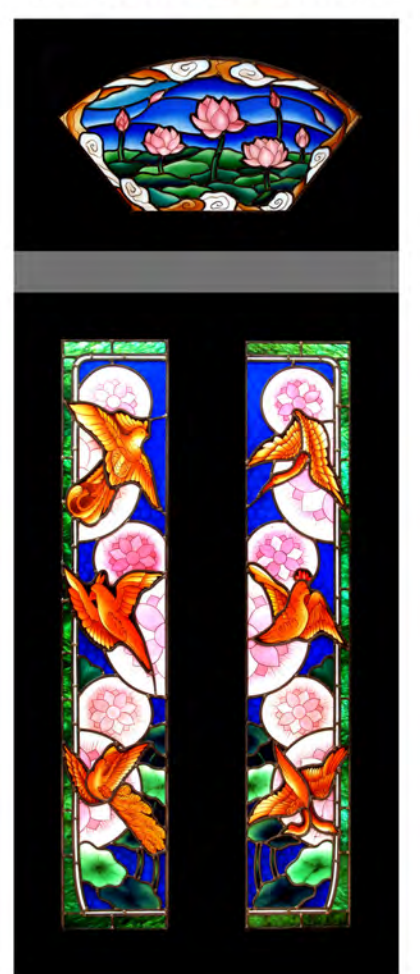
2004~2008年マクドナルド CM



2004年 熱海市花の博覧会  
(12星座の公園)



北鳥山 浄因寺納骨堂 2005年制作



レストランテーブル間仕切り  
(ダルドパール、6φガラス管、鍛鉄)

2003年制作